

「豊島区の地域にあったCS」を考えるにあたっての5つの視点

1. 社会総がかりで子どもたちを育む体制づくり

学校・家庭・地域等の交流を活性化し、それぞれの役割を果たし、社会総がかりで子どもたちを育む体制の整備

2. 既存の仕組みを生かしたコミュニティ・スクール

学校運営連絡協議会、セーフコミュニティ、インターナショナルセーフスクールなど、既存の仕組みを生かした形のコミュニティ・スクール

3. ビジョンの共有と持続可能な仕組みづくり

どのような子どもに育ててほしいかをイメージしたビジョンを学校・家庭・地域等が共有し、学校運営協議会、学校評価等を通じ、効果的なPDCAサイクルを構築する

4. 学校支援・地域貢献を軸とした、双方向の地域学校協働活動

地域・家庭がより主体的に教育活動に協力する学校支援活動と子どもたちが地域で活躍して学ぶ地域貢献活動を二つの軸とした、地域・家庭と学校の双方向による地域学校協働活動

5. 将来の地域の担い手を育む

低学年では地域等による学校支援活動の割合を高く、学年が高くなるにつれ、地域貢献活動の割合を高くしていき、子どもたちの地域愛を育み、将来の地域の担い手を育てていく

CS導入により期待される効果

1. 学校

地域之力や多様な人材の専門性を生かした学校運営等が実現する
子どもに向き合う時間や質の高い授業づくりのための時間が確保できる
学校の課題に対して、地域や保護者と一緒に対応することができる

2. 地域

防災や地域活性化につながる
将来の地域の担い手を育てることができる

3. 家庭

子どもたちの学びや体験活動が充実する
地域住民や学校、保護者同士で顔が分かる関係が築ける
地域に見守られている安心感が高まり、地域愛が生まれ、ふるさとを作ることができる

4. 人事

教職員の任用について、必要な意見を具申することで、学校の教育活動を一層充実させることができる
教職員の公募制度を活用できる